

IV. 結果

研修終了時、研修1ヵ月後のアンケート結果を下記に示す。

＜親睦研修修了時＞

1. 共同作業を通して、仕事とは違う一面（表情、取り組み方、器用さなど）を見ることができた。
2. メッセージカードを作成したことで、お互いどう思っていたのか、どう思われていたのか分かりあえてよかった。
3. 研修を受けたことで、今後相談し合える関係になれそう。

＜親睦研修1ヵ月後＞

1. 研修に参加したことで、もっと自分の気持ちをうちあけて良いと思うようになった。
2. お互い話しやすい雰囲気になり、声をかけやすくなった。

3. 仕事が終わった後に話をする機会も増え、実地指導者がいない状況の時にうけた指導について、自分から話をするようになった。

V. おわりに

今回の親睦研修は新人看護職員と実地指導者がお互いに良い関係性を築く機会となった。研修参加者からは、入職して仕事に慣れる前の辛い時期にこのような研修があったことで普段はしない話をしたり、相談しやすくなったなどの意見を聞くことができた。初めての取り組みで不安もあったが、目的達成ができ良かったと感じている。今後も、新人看護職員・実地指導者・病棟スタッフが、共に成長し合える関係作りができるような研修の企画、運営をするなどサポートしていきたい。

呼吸サポートチーム（RST）活動について

臨床工学課 岡本 奉之

呼吸サポートチーム（以下RST）とは、院内の呼吸ケアに関する知識、技術の向上と標準化を図り、人工呼吸器からの早期離脱・再挿管率の軽減・人工呼吸器関連肺炎の予防など、RST活動の推進を通して医療の質の向上を目指すことを目的としています。当院では2010年度の診療報酬改訂時にRSTの立ち上げを検討しましたが、医師の体制が整わず発足に至りませんでした。昨年4月に麻酔科医の増員に伴い麻酔科の協力を得られることになり発足準備を始め、昨年9月には病院が認めた正式な会として医療安全推進委員会の下部、正式名称を呼吸ケア作業部会とし活動を開始しました。

構成メンバーは中島麻酔科部長を委員長とし、麻酔科・救急科医師4名、看護師5名、臨床工学技士4名、理学療法士3名、栄養士3名、ケースワーカー

1名、医事課職員1名である。

活動は毎週金曜日の午後より人工呼吸器装着患者の所に医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士の4職種が1チームとするRSTチームでラウンドを行い、人工呼吸器からの早期離脱に向けて各分野からの治療方針や設定などの提案などのアドバイスを主治医や担当医に行っている。また情報データを共有するため、yahgee文書を使用している。

その他の活動としては月に1回、呼吸ケア作業部会の定例会を開催している。

今後の活動予定としては、呼吸管理に対する教育としてRST主催の勉強会の開催や院内統一した酸素療法、吸入療法、呼吸訓練、人工呼吸器装着中の看護などの呼吸サポートに関する各種マニュアルの作成を行っていく予定である。